

2025年度 大学入学共通テスト 古典(本試験) 分析

試験時間 現代文とあわせて90分

難易度	出題分量	出題傾向
前年並みかやや易化。第4問(古文)の源氏物語がやや読みにくいが、設問は標準的。第5問(漢文)は昨年並み。	総字数は第4問(古文)で増加、第5問(漢文)でやや減少。マーク数は第4問で1減。第5問で1増。	第4問では複数テキストと会話文という特徴的な出題があった。また敬語の問題も復活。第5問の返り点と書き下しの問題は苦手な生徒には難しく感じられただろう。
<p>総評 前年並みかやや易しい出題であった。第4問は大河ドラマで話題の『源氏物語』の出題。文章は難しいが、リード文ともう一つの文章との関連がわかれば読みやすかったのではないかと。第5問は知識問題が減少し読解問題が増えたが、4択の効果もあり正解を選択しやすくなっている。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第4問	古文	45点	問1は基本的な古語の知識だけでなく文脈理解も問われる。問2の敬語の問題は苦手な生徒も多く、苦戦するかもしれない。問3は会話文を通して二つの文章の理解を深める形式で、難易度は標準的。
第5問	漢文	45点	問1と問5では語句の意味、問4では返り点と書き下し文が問われており、漢文の基礎的な知識が身につけているかどうか問われている。問2の読解問題、問3の解釈の問題は標準的。問6の二つの文章を読み比べる問題は苦手にする受験生も多く、やや難しかったかもしれない。

1・2年生へのワンポイントアドバイス

知識事項が多かった前年度に比べ、文章の読解問題の比重が増えた。知識事項はきちんと身につけたうえで、学校の授業や問題集を通して多くの演習を積んでおくべきである。ただ、古文の敬語や、漢文の返り点と書き下し文が苦手な生徒も少なくない。こういった分野はたくさん解くよりもじっくりと勉強に取り組んで理解に努めることが不可欠である。